

# 保育者養成における口腔ケア体験に関する一考察 －乳幼児と保育者の役割体験を振り返った分析から－

村松 十和  
帝京短期大学生生活科学科 養護教諭コース

## A Discussion of the Promotion of Oral Hygiene by Childcare Providers during their Training － Based on an analysis of the roles played by infants and childcare providers －

Towa Muramatsu  
School Nursing Course, Faculty of Life Studies, Teikyo Junior College

---

### Abstract

In the current study, students played the roles of infants and childcare providers. Their experiences with oral hygiene and toothbrushing were analyzed to determine the significance of dental health education in training for childcare providers. *Subjects* Subjects were 97 students studying childcare. *Methods* Students practiced oral hygiene and toothbrushing in the classroom. Students were surveyed, and their responses were analyzed using the KJ method. *Results* 1. When providing oral care to infants, students reacted emotionally to the infants' response to and discomfort from irritation of the vagus nerve 2. When encouraging toddlers to brush their teeth, ① Students prompted toddlers to open their mouths so that the students could check them, and students endeavored to gain the trust of children. In addition, students devised verbal expressions to make toothbrushing fun for children and they came up with goals that children could strive for. ② After children chewed disclosing tablets, their remarks indicated lower self-esteem, but students sympathized with children who had brushed their teeth and students carefully oversaw and encouraged plaque removal. ③ Children were comforted and encouraged well-worded comments from students 3. Through these experiences, students ① became aware of the difficulties of toothbrushing and individual differences in that practice, ② students noticed that an important role of a childcare provider is to teach children how to brush and to encourage them to brush regularly. Students also sensed the importance of considering how children felt when being taught to brush. Students expressed a desire to be involved in dental health education, as childcare providers they wanted to be mindful of the feelings of children, and they apparently played a role in promoting dental health. These findings indicate that dental health education is a crucial part of training for childcare providers.

**Keywords :** oral hygiene and toothbrushing, experiences of infants, training for childcare providers

### 要旨

本研究は、学生が乳幼児と保育者の役割を演じて、その口腔内清拭と歯磨き体験の振り返りの分析から、保育者養成における歯科保健教育の意義を考えることである。【対象】保育学生 97名【方法】授業で口腔内清拭と歯磨き体験を実施後、振り返り調査について説明し、調査への協力と同意をえて実施し、分析は記述された意味内容を KJ 法で整理して、解釈した。【結果】1. 乳児の口腔ケア体験では迷走神経の刺激反応や症状、心への蓄積するものを感じていた。2. 幼児の歯磨き体験では、①口腔内の確認のため開口を促すと共に、子どもとの信頼関係構築に努めていた。また、歯磨きの根拠には子どもにとって楽しい気持ちになるよう言語表現の工夫をして子どもが目標とするイメージを持つことができるようにしていた。②染め出し後は自尊感情を低下させる言葉を発し

たが、歯磨きした子どもに共感し、磨き残しの歯磨きの指導を見守り、励ましていた。③仕上げ磨きの言葉には温かさや励ましを感じた。3. 学生はこの体験を通じ、①歯みがきの難しさや個人差等に気づき、②学生は、子どもの歯磨きの習慣化や歯磨き指導は保育者の役割で、歯磨き指導では子どもの気持ちを考えた関わりが重要だと認識し、歯科に関する健康教育に関わりたいと思い、保育者として子どもの気持ちを考え、歯科保健への意識や役割を果たそうと考えていた。以上から保育者養成で歯科保健教育を行うことは有意義だと考える。

キーワード；口腔清拭と歯磨き、乳幼児体験、保育者養成

## I. はじめに

小児歯科学会は2014年12月、8020達成は乳幼児期に虫歯をはじめとする歯科疾患の予防と定期的な口腔管理の習慣化が重要だとし、保育者養成の授業の中に歯科保健教育の義務づけを行なうべきだと報告している<sup>1)</sup>が、保育士養成課程を構成する各教育科目の目標及び教授内容に記載はなく、実施する養成校は少ないと思われる。

最近の統計では虫歯を持つ者の割合は、1歳児0%、2歳児7.4%、3歳児8.6%、4歳児36%、5歳児39%、9歳71.9%で、1人平均虫歯本数は5歳未満は1.0～0.9本だが、5歳1.7本、6歳2.4本と多く、1歳以上で毎日歯を磨く者の割合は95.3%で、2回以上の磨く者の割合は77%となっている<sup>2)</sup>。

2006年に筆者らが調査した結果<sup>3)</sup>では、両親と子どものむし歯は正相関し、特に母子間に強かった。また、歯磨き指導の場所は歯医者が61.3%と多く、定期歯科検診の有無では有群にむし歯が有意に多く、歯磨き態度が良好なほど虫歯がなく、むし歯が無い子は歯磨き態度も良好で、仕上げ磨きをする子どもの方がむし歯がない子どもが多かった。さらに、むし歯とおやつの関係では子どもが選ぶおやつが関係し、虫歯がある子どもの方が虫歯になり易いおやつを摂っていた。それに、8.2%の保護者は保育所や幼稚園に、口腔衛生指導として歯磨きや歯の大切さの知識を求め、仕上げ磨きを臨んでいた。

保育者は子どもに食後、歯磨きを促しても口腔衛生指導は歯科衛生士に依頼することが多い。そこで、筆者は保育所等で歯磨き指導ができる保育者を増やすため、子どもの保健Ⅰで歯科保健の理論を、子どもの保健Ⅲ（演習）で口腔内清拭と歯磨き体験（学生同士で保育者と園児の役割を相互に実施）を毎年実施し、口腔内清拭と歯磨き体験終了後に振り返りの調査を3年間続け、その分析結果から保育者養成における歯科保健教育（口腔ケア体験）の意義を考えたので報告する。

## II. 研究方法

対象はT専門学校子ども福祉学科学生97名で、学生が互いに乳幼児と保育者の役割を演じ、口腔内清拭（乳児）と歯磨き体験（幼児）を実施した後、体験のプロセスに沿って言葉がけや感想、保育者として子どもの歯科保健への関わりへの思いを調査した。なお、手続きは授業前に課題提出の説明と同時に研究目的と方法、倫理について説明し、研究協力を依頼し、課題用紙を分析することの同意を得た。分析は記述された意味内容を踏まえ、KJ法で整理し、類型化して解釈した。調査期間は、2013年4月～2015年7月である。

## III. 結果

### 1. 口腔清拭で指が口に入る時の気持ち（表1）

乳児になったつもりで口腔清拭を学生同士で体験させた。この体験では乳児に言葉がけして口腔清拭の実施に移る学生は少なかった。

口腔清拭で指が口腔内に入った時の気持ちは170抽出でき、「不知」「症状」「反発」「感受性」「感覚」「心に蓄積」「指による口腔内清拭時の気持ち」の7つに分類できた。総数の20%以上を占める項目は「不知」「症状」「反発」で、内容等は表1のとおりである。

表1 指が口腔内に入った時の気持ち

カテゴリー	件 (%)	内 容	n=170件 件
不知	46 (27.1)	怖い	32
		びっくり/おどろく	9
		戸惑う	3
		構える	2
症状	38 (22.4)	気持ち悪い	33
		鳴咽・吐き気	4
		喉に詰まりそう	1
反発	34 (20.0)	嫌	31
		抵抗	3
感受性	17 (10.0)	不快	15
		くすぐったい	1
		恥ずかしい	1
感覚	16 (9.4)	痛い	8
		違和感	7
		ウェットな	1
心への蓄積	15 (8.8)	不安	13
		安心感	1
		不満	1
指による口腔内清拭時の気持ち	4 (2.4)	早く終わってほしい	2
		歯並びみられている	1
		どこにブラシが来るか	1

2. 幼児の歯磨き体験 (表2)

(1) 幼児の口を開きさせる時にかけた言葉 (表2) は158抽出でき、「開口指示」「口腔内の確認」「褒める」「モデルとなる」「同意をえる」「口を開く目的」「不安

表2 開口させる時にかけた言葉

カテゴリー	件 (%)	内 容	件
開口指示	73 (46.2)	大きな口開けて、お口開けるよ「アーン」 かっこよく大きな口開けて	72 1
口腔内の確認	39 (24.7)	ばい菌・むし菌菌はいるか きれいになったか 磨き残し・上手に磨けたか 食べかすは残っていないか むし菌はあるか	14 12 10 2 1
褒める	12 (7.6)	大きい口開いたこと、頑張ったこと褒める 上手、きれいになったこと褒める	7 5
モデルとなる	12 (7.6)	自分も口開ける	12
同意をえる	12 (7.6)	お口見せてね、お口確認するね、見てもいい?	12
口を開く目的	8 (5.1)	先生が磨く、歯を磨くよ きれいにする ばい菌やっつける	3 2 2
不安除去	2 (1.3)	怖くないと伝える	2

除去」の7つに分類できた。総数の20%以上は、「開口指示」で約46%と最も多くを占め、次いで「口腔内の確認」が約25%と続き、内容等は表2のとおりである。

(2) 歯磨きを促す時使われた言葉 (表3) で、歯磨きを促す根拠の有無をみると、有43人(49.4%)、無44人(50.6%)であった。また、歯磨きを促すときの言葉は146抽出でき、「歯磨き」「ご飯を食べた」「ばい菌」「歯磨きを表す内容」「むし菌」「雰囲気を出す」「やる気にさせる」の7つに分類できた。総数の約55%は「歯磨き」で最も多くを占め、次いで「ばい菌」や「ご飯を食べた」が各々約14%前後と続き、内容等は表3のとおりである。

表3 歯磨きを促す時、使われた言葉

根拠：有43人(49.4%)、無44人(50.6%)  
n=146件

カテゴリー	件 (%)	内 容	件 (根拠有)
歯磨き	81 (54.8)	口・歯をきれいにする 歯ブラシでアンパンチする 奥歯も磨く・歯の裏側も磨く・歯磨きしようね 歯磨きマンの出番 歯を一本づつ洗う	40(19) 30(17) 8(3) 2(2) 1(0)
ご飯を食べた	21 (14.2)	ご飯を食べたらばい菌がいじめに来る。汚れている・食べかすがある ご飯を食べたから	13(13) 8(8)
ばい菌	20 (13.5)	ばい菌・バイキンマンをやっつける、退治する・追い出す ばい菌とバイバイする ばい菌が入っていったよ、ばい菌がいっぱいになる ばい菌が口の中に入れて歯を削る	16(16) 2(1) 1(1) 1(1)
歯磨きを表す内容	12 (8.1)	シュッシュ・ごしごし・ピカピカ、口をあける、痛くなったらごめんね すっきりする、歯磨き動作 (全ての記述)、洗い流す	12(5)
むし菌	7 (4.7)	むし菌になると痛い 食べカスはむし菌の原因になる むし菌を防ぐ 歯磨きしないと口の中がむし菌だらけになる	3(3) 2(2) 1(1) 1(1)
雰囲気を出す	4 (2.7)	BGM 流し子どもリズムを取りながら、大変ばい菌さんがいっぱいだよと 危機感を出す	4(2)
やる気にさせる	3 (2.0)	歯が白いと笑顔が素敵、歯磨き上手にできるかな、上手にご飯食べたね、 かっこよくできるかな	3(0)

表4 染め出し後、幼児を指導する時かけた言葉

95人、n=176

カテゴリー	件 (%)	内 容
汚れ、磨き残しの指摘	46(34.1)	汚れているところを磨く・磨けていないところある・赤い部分の意味、ばい菌が残っている・ ここがみがけていない、食べ残しが残っている・磨き残しがある
磨くことを促す	33(18.8)	しっかり・ピカピカに・上手に磨こう・もうすこしみがこう、ここをもっと磨けばきれいになる、 歯を磨いてみる?、ごしごし/シュッシュして磨こうか、これからきれいに磨こう
褒める	26(14.8)	上手になった・よく磨けた・きれいに磨けた
確認	22(12.5)	きれい・ピカピカ・上手に磨けたかな、ばい菌残ってないか、しっかり磨けているか、 どこが汚れているか
磨く目的	15(8.5)	ばい菌いるから、口はばい菌がいっぱいだから、むし菌になり痛くなる、ばい菌やっつける・ 取る・ばい菌が出て行く、バイキンマンが来てやられてしまう
指導内容 (磨き方)	7(4.0)	ハブラシの持ち方、痛くない磨き方、大きい口開いて磨く、磨く場所、奥歯から磨く、磨いてから口をすすぐ
指導方法	6(3.4)	子どもの手をもって磨く、順序良く自分も実施、歌を歌って (CD) 歯を磨く、見本を見せる
指導内容 (自立を促す)	6(3.4)	自分で歯を磨こう
関わりの説明と同意	6(3.4)	先生に見せてね、仕上げは先生がする、先生がもっときれいにしてあげる
励ます	5(2.8)	頑張ろう、頑張ってるね
共感	3(1.7)	難しかったね
見守り	2(1.1)	先生がみているから、痛くない大丈夫

(3) 染めだし後の指導時にかけた言葉(表4)は176抽出でき、「汚れ、磨き残しの指摘」「磨くことを促す」「褒める」「確認」「磨く目的」「指導内容(磨き方)」「指導方法」「指導内容(自立を促す)」「関わりの説明と同意」「励ます」「共感」「見守り」の12に分類できた。総数の34%は「汚れ、磨き残しの指摘」で最も多くを占め、次いで「磨くことを促す」が約19%、「褒める」が15%と続き、内容等は表4のとおりである。

(4) 仕上げ磨きの時にかけた言葉(表5)は176抽出でき、「仕上げ磨きの最初の説明」「励ます」「気になる意識」「仕上げ磨きの方法」「仕上げ磨きの効果」「開口動作の説明」「仕上げ磨きの目的」「仕上げ磨きの同意」「指導内容」「仕上げ磨きの注意」の10に分類

できた。総数の約45%は「仕上げ磨きの最初の説明」で最も多くを占め、次いで「励ます」「気になる意識」が11~12%と続き、内容等は表5に示す通りである。

(5) 歯磨き体験を終えた感想(表6)は、184抽出でき、「反省」「気づき」「結果」「考えたこと」「役割」の5つに分類できた。総数の20%以上は「反省」が約40%と最も多くを占め、次いで「気づき」が約26%、「結果」が約22%と続き、それらのサブカテゴリーをみると、「反省」が【口腔の状況】【努力】【指導者として】の3つ、「気づき」が【驚き】【歯みがきの難しさ】【歯みがき結果の個人差】【開口の困難】の4つ、「結果」は【悲嘆】【喜び】の2つ、「考えたこと」は【子どもの現状】【指導のあり方】【むし歯予防対策】【自分の

表5 仕上げ磨きの時かけた言葉

95人、n=176件

カテゴリー	件 (%)	内 容
仕上げ磨きの最初の説明	77(45.3)	魔法をかける、仕上げ磨き、もっときれいに、シュッシュ、ピカピカ、口の中をきれいに、もう一度磨く、最後に磨く・ちょっと磨く、汚れている・もう少し磨きが必要などあり磨く、仕上げ、白い歯に、先生と一緒にゴシゴシ、見えないところのお手伝い、難しいところはもっときれいに、大切な歯だからちゃんと、仕上げ磨きの場所
励ます	21(12.4)	きれいになった、上手に磨けた、よく頑張った、安心してね、自分で次は頑張ろう、もう少し我慢して
気になる意識	19(11.2)	汚いと感じた、しっかり磨けていない、歯の裏・根元を重点的にする、ばい菌いないか、きれいになったか、きれいに磨けたか、ピカピカになっているか、汚れていないか
仕上げ磨きの方法	14(8.2)	きれいにする順序、歌いながら、ばい菌まんが来ないようにきれいに一れと言いながら磨く、歯ブラシ受取り磨く、仕上げ磨きの体位ややり方の説明
仕上げ磨きの効果	12(7.1)	ばい菌やっつけた、ばい菌とバイバイできる、きれいになった、気持ちいい、ピカピカに変身だ
開口動作の説明	12(7.1)	アーンしてイーして、お口を見せて、口を大きく開いてちょっと我慢して、きれいなお口・もう一度見せてね
仕上げ磨きの根拠	7(4.1)	ばい菌やっつける・とっちゃお、食べ残しあるといけない
仕上げ磨きの同意	5(2.9)	先生に歯を磨かせてね、先生が仕上げ磨きしていいかな、先生に手伝わせてね
指導内容	2(1.2)	こうして磨く
仕上げ磨きの時の注意	1(0.6)	少しの間声を出したり歯を磨くのやめてもらう

表6 歯磨き体験を終えた感想

95人、n=184件

カテゴリー	件 (%)	サブカテゴリー	件 (%)	内 容
反省	71(38.7)	口腔内の状況	47(66.2)	磨けてない部分・場所、歯磨きがきちんとできていない、歯の内側/根元、隙間・奥歯・前歯の磨き残し、舌が真っ赤だった
		努力	21(29.6)	しっかり・丁寧・きれいに磨きたい/頑張りたい
		指導者として	3(4.2)	自分がきれいにできなければ指導は矛盾がある、自分の歯を磨けないことは幼児の歯も磨けないと同じ、子どもに教えるには自分の歯のどこに汚れがあるのか知る必要あり
気づき	47(25.5)	驚き	27(57.4)	磨けていない、しっかり磨いたつもりだった、奥歯が虫歯
		歯磨きの難しさ	12(25.5)	みえるところは磨けるが、見えにくいところ(奥歯・内側)は磨き残しがある、磨きにくいところは磨き残しがある、歯並びは悪くなくても磨き残しがある
		歯磨きの個人差	6(12.8)	奥歯の歯茎は意識しないと磨けない、歯間は歯石ができやすい磨けていない部分は個人差がある、奥歯は磨きやすい
		開口の困難	2(4.3)	口がしっかり開かない・閉じてしまいそうになり奥歯を磨くのが大変
結果	40(21.7)	悲嘆	39(97.5)	磨き残しで、汚いびっくり/残念/ショック、思った以上に磨けていない
		喜び	1(0.25)	歯磨きがきちんとできているのがうれしい
考えたこと	23(12.5)	子どもの現状	9(39.1)	子どもは力が弱いので、磨き残しが多い、子どもはどこに磨き残しがあるかもわかっていない、子どもの歯の発育にあった磨き方が必要、子どもは力の入れ方・ばい菌がいるところはわかりにくい
		指導のあり方	6(26.1)	磨けていない部分は念入りに磨く指導が必要、見本見せつつ磨き方指導が大事、子どもの磨きにくいところを重点的に指導したい、前歯はイーで磨ける
		むし歯予防対策	5(21.7)	仕上げ磨きの重要性、フッ素塗布の習慣をつける
		自分の気持ち	3(13.0)	1つづつきれいにしようとしているわけではない、歯は自分にとって大切
役割	3(1.6)	口腔の清潔習慣	3(100.0)	保育者は基本的習慣を身に付けさせていく必要がある

気持ち】の4つ、「役割」は【口腔の清潔習慣】の1つからなり、それらの内容は表6のとおりである。

### 3. 子どもの歯科保健への関わり (表7)

保育者として子どもの歯科保健への関わりたい気持ちは、307抽出でき、「歯の健康教育の理論と実際」「保育者の役割」「歯の健康に関する認識」の3つに分類できた。総数の約69%は「歯の健康教育の理論と実際」で最も多くを占め、次いで「保育者の役割」が約20%と続き、それらのサブカテゴリーは、「歯の健康教育の理論と実際」が【教育方法・教材】【歯磨き】【むし歯】【実技】【指導上の注意】【展開方法】【口腔内の清潔】の7つ、「保育者の役割」が【自立支援】【業務内容】【むし歯予防】【歯の役割】の4つ、「歯の健康に関する認識」が【子どもの気持ちを考えた関わり】【歯磨き指導の意識】【保育者の役割意識】【歯の健康への思い】の3つからなっていて、それらの内容は表7とおりである。

表7 子どもの歯科保健への関わり

85人、n=307件			
カテゴリー	件数 (件%)	サブカテゴリー	件数(%)
歯の健康教育の理論と実際	211 (68.7)	教育方法・教材	63(29.9)
		歯磨き	59(28.0)
		むし歯	19(9.0)
		実技	18(8.5)
		指導上の注意	18(8.5)
		展開方法	13(6.2)
		口腔内の清潔	9(4.3)
保育者の役割	60 (19.6)	指導上の工夫	4(1.9)
		自立支援	31(61.7)
		業務内容	19(31.7)
		むし歯予防	10(16.7)
歯の健康に関する認識	36 (11.7)	歯の役割	8(13.3)
		子どもの気持ちを考えた関わり	14(38.9)
		歯磨き指導の意識	9(25.0)
		保育者の役割意識	7(19.4)
		歯の健康への思い	6(16.7)

## IV. 考察

### 1. 乳児体験

新生児から歯牙の萌出時期の口腔内は、舌の機能の未熟なうえに、哺乳後は汚れたままになるため汚れが残りやすい。そのためこの時期の口腔ケアは、歯茎と口唇の間は泣いて嫌がっても行う方がよい<sup>1)</sup>ともいわれ、口腔内は磨くものとの習慣づけや観察の意味でも大切である。

乳児としてガーゼを巻いた指で口腔ケアを受けた時の気持ちは、「不知」「症状」「反発」「感受性」「感覚」「心への蓄積」「指による口腔内清拭時の気持ち」の7つであった。口は人間にとってプライベートでデリケートな場所なので、触れられたくない思いがあるから、「不知」の怖い、びっくり/おどろく、戸惑う、構えるという反応は当然のように思う。また、「症状」の気持ち悪さや嗚咽、喉に詰まりそうはガーゼを巻い

た指が迷走神経を刺激した反応と考える。抵抗や嫌という「反発」、不快等の「感受性」、痛いや違和感等の「感覚」は拒否を表すものであり、不安、不満、安心感「心に蓄積」されるものである。歯牙萌出前の口腔ケアは乳児にとって口腔内に「物」が入るということに慣れさせる意味で重要だが、学生の体験した気持ちを考えると、言葉の意味を乳児が理解できなくても、「お口に指を入れますよ」と語りかけるように声掛けして口腔内に指を入れ、手早く口腔内を清拭して、不安の除去につとめる必要がある。なぜなら、子どもを優しく尊重した言葉がけで、不安除去に努めながら、要領よく口腔ケアテクニックをすることは乳児にとって安心に繋がるが、それらを怠れば不安や不満として心に蓄積していくからである。乳児の気持ちを理解するうえで学生がこの体験をすることは意義があると考え

### 2. 幼児の歯磨き体験

3歳児になると歯磨きは自分ででき、なぜ歯を磨かなければならないかも少しづつわかってきて、4、5歳児では歯磨きは当たり前となる。しかし、歯磨きの間は友達とも遊べないしおしゃべりもできないので、「面倒くさい、早く終わりたい」という気持ちが湧き、歯磨きの行為をいい加減にする子どもも現れると考える。歯磨きの大切さを認識させるには、子どもに歯がきれいか、歯磨きがむし歯を防いでいるかを実感させる必要がある。実感させるには大きく開口してもらい、歯がきれいかやむし歯を意識した言葉がけが必要になる。開口時の言葉で総数に占める割合が多い項目の内容をみると、「開口指示」は大きな開口の指示、「口腔内の確認」はばい菌・虫歯菌はいるか、きれいになったか、磨き残し・上手に磨けたか等であった。つまり、学生は「口腔内の確認」のために「開口指示」を出し、大きく開口することを伝えている。また、「同意をえる」「不安除去」は少ないが、口がプライベートな場所であることや子どもを尊重するという点から考えれば、これらの内容は信頼関係の構築に役立ち、子どもは抵抗なく大きく開口し、目的を果たすことになると考える。

歯磨きを促す時は、歯磨きがなぜ必要なのかの根拠を入れ、歯磨きの大切さをわかりやすく理解させる必要がある。歯磨きの根拠を入れていた学生は約半数と少なかったことから、歯磨きを促す時は科学的根拠を踏まえて子どもの理解を促す保育者を増やす意味でも歯磨き指導の体験は必要である。また、歯磨きを促す

ときの言葉で上位の「歯磨き」の内容は口・歯の清潔、歯ブラシでアンパンチする等で歯磨きの目的や方法を示していた。また、「ご飯を食べた」の内容は食後の口腔内の汚れや食べかす、ばい菌がいじめに来る等で、「ばい菌」の内容はばい菌やバイキンマンが歯を削るからその退治を表すため、いずれも歯磨きを促す根拠となるものであった。このことから歯磨きを促す言葉の殆どは、歯磨きするのは当たり前というイメージを子どもに抱かせやすいと考える。さらに、「むし歯」の内容は痛いとか歯磨きしないとむし歯だらけになる等、虫歯は子どもに怖いというイメージは伝わるものの歯磨きの大切さが伝わるかどうかは疑問であることから、歯磨きの大切さを伝えるには、歯磨きの根拠だけでなく歯磨きの効果を子どもにわかりやすく伝える方法を考える必要がある。それに、歯磨きを促す言葉に「歯磨きを表す内容」があったが、その内容はシュシュ・ごしごし・ピカピカというオノマトペ（擬音語）が使われており、これは歯磨きをするとという表現を鮮やかにし、子どもの心に伝わりやすくしていると考えられる。オノマトペの使用と前述したアンパンチやバイキンマンという言葉は「雰囲気を出す」の内容と合わせ子どもを楽しい気持ちにさせたり、「やる気にさせる言葉」の内容を含めて考えると、子どもを褒めたり、子どもが目標とするイメージを持つことができる点で、子どもの発達を支える保育者としての専門性が発揮されていると考える。

染めだし後に幼児に言葉がけした「汚れ、磨き残しの指摘」だが、この内容を指摘されれば子どもの自尊心は低下すると思われる。それより、染め出しで赤く染まった部分を各自が鏡で確認すれば磨き残しのチェックができる。そうすればおのずと子どもは自身の目を養うことができ、再度、磨き残しの部分を意識して歯みがきをして、もう一度確認染めをして、汚れが落ちていけば、子どもは歯みがきに対するやる気ができて、磨き方の改善に繋がるかもしれない。

歯磨き指導では、磨き残しの有る、無しが大切ではなく、子ども自身が磨き方のどこが悪いからどう磨けばよいのかという原因と対策がわかれば子どもは自ずと内面に意識が向き、前向になる。学生の「磨くことを促す」「褒める」「確認」「関わりの説明と同意」「励ます」「共感」「見守り」「指導内容（磨き方）」「指導方法」「指導内容（自立を促す）」の言動から、学生は子どもの口腔内を確認しようとしているが、歯磨きした子どもに共感し、磨き残しの部分の歯磨き指導を見

守り、励ましていることが読み取れる。このことから歯磨き指導体験は保育者となる学生にとって有意義だと考える。

乳歯から永久歯への生え変わる頃の歯の大小や子ども一人での歯磨きでは、磨き残しというリスクが生じ、虫歯になりやすい。虫歯がない子どもは仕上げ磨きをしているが<sup>1)</sup>、仕上げ磨きを子どもが嫌がり、親が苦勞する事例は多い。学生の仕上げ磨きの言葉を見ると、「気になる意識」の内容はしっかり磨けていない、ばい菌いないか、汚れていないか等で自尊心を低下させる内容が含まれていたが少なく、魔法をかける、もっときれいに、白い歯に、見えないところのお手伝い等を内容とする「仕上げ磨きの説明」が多かった。また、きれいになった、上手になった等を内容とする「励ます」の内容は、仕上げ磨きは怖いものとか、当たり前とか、子どもの自尊心を傷つけるという雰囲気は少なく、むしろ自分の歯がきれいになるよう魔法やお手伝いをするという温かさや励ますものが感じ取れる。このことから、子どもにしたら仕上げ磨きは、むしろスキンシップの場となると考える。この頃の子どものために仕上げ磨きは必須のものであるため、痛いということ避ける技術（上唇小帯に歯ブラシが当たらないようにする）を取得する上でも仕上げ磨き体験は有意義だと考える。

### 3. 歯磨き体験と子どもの歯科保健への関わり

歯みがきの体験で分類できた「反省」「気づき」「結果」「考えたこと」「役割」のサブカテゴリーを分析すると、学生は歯磨きをして磨き残しの部分に気づき、歯磨きに対する自覚や指導者としての自覚を意識していた。そして、染め出し後の口腔内を確認し、磨けていないや奥歯が虫歯になっていること等に驚き、歯みがきの難しさを実感したり、歯みがき結果の個人差に気づいていた。また、歯みがき時の大きな開口の必要性を実感するとともに、歯磨き体験で悲嘆や喜びの感情を抱く結果となっても、子どもの歯磨き指導での現状や対応を予測し、具体的な指導内容や虫歯予防対策を考えていた。さらに、歯磨き体験がもたらす複雑な感情を抱きつつも、口腔衛生を基本的習慣として子どもに身につけさせる役割は保育者にあると認識していた。

子どもの歯科保健への関わりで約70%を占めた「歯の健康教育の理論と実際」のサブカテゴリーから歯科保健教育に興味をもった学生は多く、約20%を占めた「保育者の役割」のサブカテゴリーからは自立支援

が50%強、業務内容が30%強を占め、約10%強を占めた「歯の健康に関する認識」のサブカテゴリからは子どもの気持ちを考えた関わりが約40%、歯磨き指導の意識が25%、保育者の役割意識が約20%を占めた。このことから、学生は歯磨き指導が保育者の役割であり、業務であると感じていることや、歯磨き指導では子どもの気持ちを考えた関わり的重要性を認識していることがわかった。つまり、学生はこの口腔ケア体験によって、歯科に関する健康教育への関わりをしたいと思い、保育者として子どもの気持ちを考え、歯科保健への意識や役割を果たそうと考えていることがわかり、この口腔ケア体験は学生にとって学ぶことが多く、有意義であるといえる。

## V. 結論

口腔内清拭と歯磨き体験終了後の振り返りの調査をもとに、保育者養成における歯科保健教育の意義を考えた。

乳児の口腔ケア体験で学生は迷走神経の刺激反応や症状、抵抗や不快、痛いや違和感、心への蓄積するものを感じていたことから、乳児への語りかけや口腔ケアのテクニックを修得する関係上、口腔ケア体験は必要である。

幼児の歯磨き体験では、①口腔内の確認のために開口を促すが、その時に開口への同意や不安除去して子どもとの信頼関係の構築に努めていた。②半数の学生が歯磨きの根拠を言っていたが、歯磨きするのは当たり前やむし歯は怖いというイメージが伝わってきた。しかし、歯磨きという表現を鮮やかにするためのオノマトペや、アンパンチやバイキンマンの言葉を使用して、楽しい気持ちにさせ、子どもを褒めたり、子どもが目標とするイメージを持つことができるようにしていた。③染め出し後は自尊感情を低下させる言葉を発したが、歯磨きした子どもに共感し、磨き残しの歯磨き指導を見守り、励ましていた。④仕上げ磨きでは歯がきれいになるよう魔法やお手伝いをするという温かさや励ますものが感じ取れ、仕上げ磨きがスキンシップの場になることが考えられた。

歯みがきの体験では歯みがきの難しさや個人差等に気づき、歯磨き指導での子どもの現状や対応を予測し、具体的な指導内容や虫歯予防対策を考え、歯磨きの習慣化は保育者の役割であり、歯磨き指導では子どもの気持ちを考えた関わりが重要であると認識していた。そして、学生は歯科に関する健康教育への関わりをし

たいと思い、保育者として子どもの気持ちを考え、歯科保健への意識や役割を果たそうと考えていた。以上より、保育者養成での歯科保健教育（口腔ケア体験）の実施は有意義だと考える。

## 文献

- 1) [http://www.jspd.or.jp/contents/common/pdf/main/hoken\\_arikata.pdf](http://www.jspd.or.jp/contents/common/pdf/main/hoken_arikata.pdf) [2018.10.31]  
一般社団法人 日本小児歯科学会, 幼稚園・保育所一体化に伴う乳幼児歯科保健のあり方, 2014, 12
- 2) <https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/62-28-02.pdf> [2018.10.31]  
平成28年 歯科疾患実態調査結果の概要 厚生労働省
- 3) 村松十和, 竹條有里: 子どもの虫歯予防に関する研究—実態調査から—, 名古屋短期大学研究紀要, 第46号, 2011, pp.151 - 16